

## 算数少人数・習熟度別指導について

### 1 習熟度別指導の目的

習熟度別指導は、個に応じたきめ細かい指導を通して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、児童の個性を生かし、自ら学び、自ら考える力などの「確かな学力」を育むための指導方法として実施するものです。大泉学園緑小では低学年から習熟度別の学習を行うことで、学習内容の定着を図ります。

### 2 少人数・習熟度別指導該当学年

- ・ 1年生…3クラス4展開×週4時間（各クラス担任＋講師）
- ・ 2年生…2クラス3展開×週5時間（各クラス担任＋講師）
- ・ 3、4年生…3クラス5展開×週5時間（各クラス担任＋算数専科＋講師＋TT講師）
- ・ 5、6年生…3クラス4展開×週5時間（各クラス担任＋算数専科＋TT講師）

### 3 学習形態・コース分け（「ゆっくり」「しっかり」「どンドン」）

児童の理解や習熟の程度を把握するために、単元の学習に入る前にレディネステストを行い、その結果と児童の希望を加味してコース分けをしていきます。また、学習集団は年間を通して固定化するものではありません。基本的には、すべての学習において習熟度別指導を行います。児童のつまずきに応じた段階的な指導計画を立て、単元の特性や児童の発達段階を考慮しながら、指導計画や人数を工夫していきます。

#### 「ゆっくり」・・・基礎重視・補充コース

- ほぼ教科書通りに問題を進めていきます。
- 学年を越えて分からない箇所に立ち戻る指導を徹底します。
- 理解の程度や理解の習熟度の違いに応じた課題や教材・教具等を活用します。
- 当該学年の学習内容を習得させ、単元の内容や理解の状況によっては、発展的な内容を扱うときもあります。

#### 「しっかり」・・・基本コース

- ほぼ教科書通りに問題を進めていきます。
- 単元の内容や理解の状況によっては、学年を越えて分からない箇所に立ち戻ったり、発展的な内容を扱ったりすることもあります。

#### 「どンドン」・・・発展・応用コース

- ほぼ教科書通りに問題を進めていきます。
- 教科書の問題を終えた後、各時間の後半や単元展開の終盤で、発展問題に挑戦します。